

## コンピューター解析で解読にいどむ!

インダス文字は資料が少なく、世界中の考古学者や言語学者が研究を進めていますが、いまだに解読できません。フィンランドのアスコ・パルボラ博士やインドのイラワダン・マハーデーヴァン博士は、インダス文字はインドを中心を使われて居るトラヴィダ語とのつながりを調べ、多くの研究の足がかりを作っています。アメリカのラジュシュ・ラオ博士は脳神経科学を専門とされていますが、そこで使われるコンピューターによる解析方法を応用して、インダス文字を解明しようとしています。



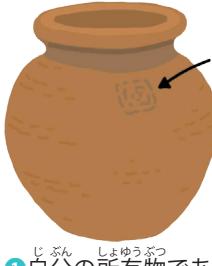
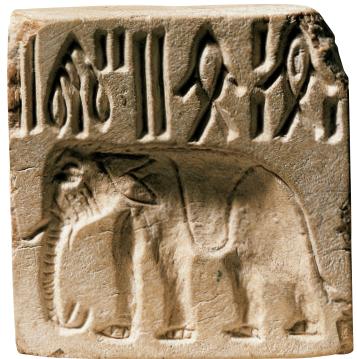
古代のインド大陸にどのような人々がどんなふうに暮らしていたのか、いまだに多くがなぞに包まれており、文字の解説が待たれます。

## 下水道もあった！ 高度なインダス文明

インダス文明は、現在のパキスタン、北西インド、アフガニスタンにいたる大規模なものでした。焼きレンガ造りの住居や建造物が、きちんと計算された都市計画にもとづいて建設され、焼きレンガの大きさも統一されていました。都市は城塞部と市民の住む市街地に分けられ、市民の住まいにも沐浴場や井戸がありました。城塞には巨大な穀物倉や沐浴場があり、儀式のために使われていたと考えられています。傾斜をつけた下水道が整えられ、かんたんな水洗トイレが使われていたようです。同じ時期に興ったメソポタミアやエジプトよりも規模が大きいにも関わらず、絶大な権力を持つ王などを祭る神殿や王墓の遺跡が見つかっておらず、大量に武器を作った形跡もありません。

## ミステリアスな、なぞの文字

5000年以前から、地球のあちこちでさまざまな文字が生み出され、歴史の中に埋もれていきました。解読できない文字のミステリーは、今でも多くの研究者をとりこにしています。



①自分の所有物であることを示すために、印を押す。

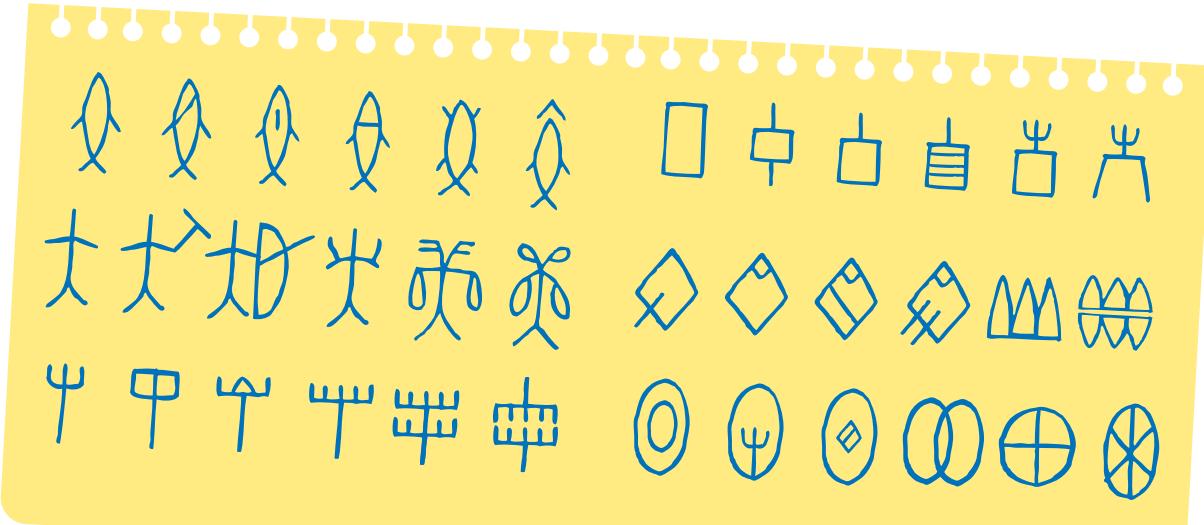


②途中で開けられないように、封をした上に押す。

## インダス文明が生んだ文字

紀元前2600年ごろ、インダス川流域に、レンガ造りの都市を持つ古代文明が興りました。1922年にモヘンジョダロで遺跡が発掘されて以来少しずつ姿が明らかになり、1000を超える住居跡が数百万km<sup>2</sup>にわたって広がる、規模の大きな都市文明であったことがわかっています。文字が刻まれ

た印章や石が数千個見つかっており、文字が使われていたこともわかっています。しかし、どれも20にも満たない文字数しかなく、そもそも何の言語を表したものかがはっきりしないため、解読できていません。右から左に書かれたものが多く、文字数はおよそ400個と考えられています。



## イースター島のミステリー・ロンゴロンゴ文字

モアイ像で有名なチリ共和国のイースター島には、ロンゴロンゴと呼ばれる文字があり、今でも解読できません。むかしは木片にこの文字を刻み、お経のように節回しをつけて吟じていたようですが、1864年に発見されたときにはすでに多くの木片は失われたり、文字を読める人もいませんでした。基本の絵文字がおよそ120個あり、一部の文字がインダス文字に似ていることが指摘されています。



木の板にびっしり刻まれたロンゴロンゴ文字。